



地方独立行政法人青森県産業技術センター

あおもりの未来、技術でサポート

第8号

畜産研究所ニュース

2017.8.10

## 研究成果トピックス ～顕微授精技術で子牛生産に成功～

当所では平成29年2月26日に「顕微授精技術」で県内初（国内で3例目）となる子牛の生産に成功しました。今後は、この技術を生かし、本技術での一卵性双子生産にも取り組んで参ります。



極細のガラス管で精子を卵子に注入（注）

### 【顕微授精技術とは？】

顕微鏡をみながら極細のガラス管で精子1個をつかまえ、直接卵子に注入する技術。通常の体外受精では受精しにくい精液でも確実に受精卵を作成することができる。

### 【技術の活用場面】

当所が確立した「割球分離技術」（1個の受精卵から2個の受精卵を作成する技術）と組み合わせることで、優良系統の一卵性双子を安定的に生産できる。一卵性双子が雄であれば、一方を肥育して肉質を確認する「双子検定」により、優良種雄牛の作出期間を現行の約半分（3年半）に短縮することが期待できる。



無事生まれた子牛（雌34kg）  
5か月後の現在は体重140kgで  
順調に生育中

（注）青森県産業技術センター公式 YouTube で顕微授精の動画配信中

## 追加情報 2組目の一卵性雄双子が誕生！

本年6月2日、割球分離法では2組目となる一卵性の雄双子が誕生しました。

今回は受卵牛1頭への2卵移植だったため、双子の生時体重は22kg、20kgと小さめでした。現在は61kg、60kgと順調に発育しています。

血統は父「優福栄」×母の父「安平」と良血であり、今後体型等をみながら双子検定を行うか検討いたします。

なお、8月末にも3組目の分娩が予定されており、双子検定の確立による種雄牛作出期間の短縮に向けて着実に成果が出ています。



## 小原孝博総括研究管理員が畜産研究功労者表彰を受賞

このたび長年の研究功労により小原孝博総括研究管理員(中小家畜・シャモロック部長事務取扱)が畜産研究功労者表彰を受賞しました。この表彰は全国51カ所の畜産研究機関で組織する全国畜産関係場所長会が行うもので、毎年各地域から多数の候補者が推薦される中、特に顕著な功労が認められた12名のみが選ばれます。

小原総括研究管理員は、本県が誇る特産地鶏「青森シャモロック」や緑の玉子を生産する「あすなる卵鶏」の育種改良、食味向上研究への貢献に加え、平成26年度から取り組んだ「特別飼育の青森シャモロック(プレミアム青森シャモロック)」の開発が高く評価され、栄えある受賞に輝きました。



## 全国和牛能力共進会宮城大会 全区で県代表が決定

9月7～11日、仙台市で開催される宮城全共の県代表が決まりました。**関係者全員で応援を！！**

区 分		名 号	出 品 者
1区	若雄 15～23か月	晴奥勝	畜産研究所 和牛改良技術部
2区	若雌 14～17か月	ちはる	三戸町 中井のり子氏
3区	若雌 17～20か月	くにみつはな	三戸町 大沢昭友氏
4区	系統雌牛群	第3てるやす、第4かつえいこう、第7ふくみつ、ひらえいこう	田子町 尾形欣典氏
5区	繁殖雌牛群	もりやすしげ2、第2みなとかつ、ひらみなと、ふくしげ2	田子町 森崎敏氏 三戸町 湊舟廣氏、大平美智夫氏
6区	高等登録群	第1さくら、くにさくら やえさくら	田子町 高松隆一氏
7区	総合 評価群	種牛群	おくうえ、おくひらきく ちづる、おくまえはら
		肉牛群	西奥、奥福鶴、奥秋
8区	若雄後代検定牛群	清悠璃、清春、国広 (父：広清)	三戸町 立花昇氏、久保有清氏、 中井のり子氏、立花栄作氏
9区	去勢肥育牛	花清平(父：平安平) 茂 照(父：光 茂)	田子町 蹴揚忠義氏 三戸町 立花昇氏
			横浜町 太田岩男氏 東通村 橋本勝春氏、菊池秋男氏
			十和田市 折田勝男氏 五戸町 豊田 聡 氏

地方独立行政法人 青森県産業技術センター 畜産研究所  
 本所 TEL0175-64-2231 和牛改良技術部 TEL0173-26-3205  
 畜産の技術について何かありましたらお気軽にご相談して下さい。